

1. はじめに

近年、ファサードにおけるガラスの使用が目につくようになった。都心に行けば至る所にガラスが使用されているビルを見かける。そんなビルを眺める時に一番印象に残るのは、ガラス窓に朝日が反射して眩しいと感じたり、青空がカーテンウォール一面に映っていて綺麗と感じたりする視覚的効果ではないだろうか。

ガラスは当初、透過性という特徴を生かして採光や眺望を得る為に窓ガラスとして建築に使われたのだが、構法の進化によって、大ガラス壁面を構成する事も可能となっている。鏡面効果により、建物を見ることと同時にそこに映り込む周辺環境を見ることが出来るというものである。

そこで、ガラスの視覚的効果に着目して都市景観にどのような影響を与えるのか調査してみることにした。

2. 現地調査

東京のビル街を歩き回り、建物壁面の写真を撮ると共に、気づいたことをメモした。天候や時間帯も考慮して撮影を行った。訪れたのは、表1に示す10箇所である。

表1 訪問調査地

・東京	・銀座
・浜松町	・田町
・新橋	・汐留
・六本木	・新宿
・原宿	・表参道



図1

2-1. 映り込み

反射の魅力としてガラスに周りの環境が映りこむということがある。図1は浜松町の世界貿易センタービル前から撮影したあるオフィスビルの画像である。街行く人が上を見上げる程、綺麗に青空が映り込んでいた。

しかし、ガラス面に屋上看板が映ると、映り込みはよくないといえるような気がする。



図2

2-2. 光膜反射

ガラス表面の反射光が透過光にかぶることによって、内部が見づらくなる光膜反射が起きる。図2は、原宿の神宮前付近から午後に撮影したある商業施設の画像である。1階部分では外のバイクや車などの風景が映り込み、内部の様子が見づらかった。照明などを落としているので建物内部は暗かった。

2-3. 内部空間の見せ方の調節

透明なガラスは、中の様子がわかるので、人々の関心を惹くことができる。また、フィルムを貼ることで外部と内部を全く違う空間にしているものもあった。

2-4. 隣接したビルの影

図3は、東京都庁第二本庁舎南側付近で撮影した新宿NSビルである。向かい側の東京都庁（第二本庁舎）の影が映っている。壁面に映った影は、光が当たっている場所と当たらない場所がはっきりとわかった。

図4は、電通本社ビル付近で撮影した汐留シティセンターである。ガラスのカーテンウォールには向かい側の日本テレビタワーの影が映っている。カーテンウォールに映った影は影という事をあまり感じさせなかった。



図3



図4

2-5. ガラスの可能性

銀座のメゾン・エルメスの特徴あるガラスブロック、また青山にあるプラダ青山店の菱形のガラスを使った建築はガラスの使い方としては先端的である。

3. まとめ

この研究を行い、ガラス建築は透過性と同じくらい反射性を考える必要があると思った。反射がグレアにつながる場合、建築的に対処する方法はガラス面の分割、方角の検討、ガラスの表面加工など、いくつか考えられる。

また、ガラスを通して建物内部が見える場合には、室内の状態もガラス面の見え方に大きく関わってくる。

ガラスの性能や構法は日々発展し、今後より多くの建築に使われていけよう。そんな時に多角的な視点からガラスの効果と建築のつながりを考えていくべきだと思う。